

ワクチン流通の現状と課題

= 第32回 研究開発および生産・流通部会 =

2023年 5月24日

一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会

本日のご説明

1 現状認識

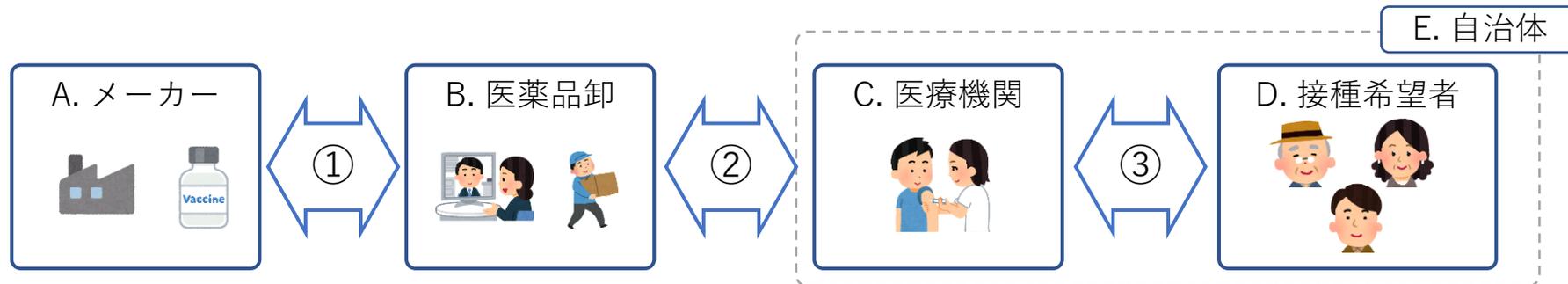
2 課題の整理と改善の方向性

3 今後の取組み

現状認識

医薬品卸は、ワクチンを含む医薬品の安定供給に努め、地域の医療提供サービス向上に貢献している。
 ワクチンの流通プロセスの効率性を向上させるためには、更なる改善が必要と思われる領域も残されている。

工程	現状認識 (医薬品卸の視点から)
①	<ul style="list-style-type: none"> メーカー側と生産/供給計画の情報共有は難しい。
① ②	<ul style="list-style-type: none"> メーカーから医薬品卸への出荷割当て量(供給量)と、医療機関からの需要量のギャップが生じている。 何らかの供給制限がかかった際には、医薬品卸に需給調整の業務負荷がかかる。
① ③	<ul style="list-style-type: none"> 接種期間中における需要予測が困難なため、メーカーが綿密に供給計画を策定するのは難しいのではないか。
②	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品卸は過去実績に基づく納入計画をベースとしており、突発的な発注増にタイムリーに対応できない。 供給情報が見えないことで、安心した在庫量を確保するための上積み発注が誘発される懸念がある。 季節性ワクチンの場合、接種希望期間のピークを過ぎると、返品等の発生が医薬品卸の負担増となる。
③	<ul style="list-style-type: none"> 接種期間中における需要予測が困難なため、医療機関が正確な発注計画を策定するのは難しいのではないか。
ABC	<ul style="list-style-type: none"> 流通当事者の自助努力だけでは、不測の事態に備えるための在庫の確保が困難である。 流通プロセスの一部に在庫偏在が発生したとしても、流通当事者だけで正確に実態を掌握することは困難である。



課題の整理と改善の方向性

円滑なワクチン供給を実現するため、流通過程で生じている課題を検証し、当部会において改善に向けた取組みをご検討いただきたい。

課題の整理

1. 生産量と必要量のバランスが崩れた場合に、安定的な流通に支障をきたす。
2. 接種期間中の供給総量が十分であったとしても、メーカーの供給と医療機関の需要との間に時期のズレが生じることで、一時的な需給逼迫が生ずる。
3. 需要予測の難易度が高いため、突発的な需要増が発生した場合の対応が困難となっている。

改善の方向性

1. 生産量と必要量がリンクするための情報共有の促進。
2. 需給ピークのズレを最小化する枠組みとして、全体的なスケジュールの前倒しの検討。
3. 行政による最低限の備蓄確保や、流通最適化のための働きかけの検討。

今後の取組み

- 国民の期待に応える医療サービス提供との視点で、行政・医療機関・メーカー・医薬品卸が一体となって、効率的なワクチン供給の仕組みを検討することが重要である。
- SDGsの観点からも、“ワクチン廃棄による資源ロス”を最小化するという共通意識を徹底する必要がある。
- 接種を希望される国民に対して、円滑にワクチンを供給できるよう、医薬品卸はこれからも努力してまいります。